[別紙 2]

審査の結果の要旨

論文提出者氏名　瀬尾　雄三

近年急速に普及した電子的コミュニケーションは，社会のさまざまな混乱の原因ともなっているが、その利用は今後もますます拡大すると考えられている．従って，この技術が社会に及ぼす影響を事前に予測することは，社会のさまざまな組織の運営上も，また，電子的コミュニケーションという新しい技術を有効に活用する上でも欠かせない．本研究は，インターネットを介して伝送される電子掲示板システムであるネットニュースを対象に，実際に交わされたメッセージを分析し，その場における社会関係を探ることを試みたものである．

メッセージ内容と社会関係を結び付ける手がかりとして，コミュニケーションの場に生じている対立に着目している．その理由は、ネットニュース上で生じている対立に，コミュニケーションの場に対する参加者間の認識について，ある種の文化的対立が存在すると考えられたためである．分析の対象として，日本発のニュースグループ fj におけるネットニュースの使い方を議論する場である，fj.news.usage を選んだ．これは，このニュースグループでは，ネットニュースというコミュニケーションの場に対する参加者の認識が現れやすく，その相違点による対立も頻繁に観測すると考えたことによる．分析は 1995 年から 1998 年までの 4 年間にわたってこのニュースグループに投稿された全ての記事を対象に行っている．

他の記事に対するフォローアップ記事には，フォローアップ先の記事を指し示す情報が記事の先頭に記述されている．これを手がかりに，全ての記事を，これら相互の参照関係により，木構造にまとめあげ，それぞれの木を独立したスレッドとみなして，対立の解析の対象としている．

スレッド中の対立の有無と対立点は，次のような手続きにより抽出している．まず、スレッド中で頻出する漢字ないし熟語をキーワードに選ぶ．次に、記事毎のキーワード出現頻度を主成分分析により記事の主成分スコアを計算する．最後に、議論の過程における主成分スコアの自己相関関数およびこれから求めたパワースペクトルにより振動の有無を判定する，という一連の手続きである．このような分析結果で、議論の過程で振動する主成分が存在する場合，対立があると仮定し，その対立点は主成分の意味を判断することによって把握している．機械的対立手法と並行して，スレッド内容の読解によっても対立点を求め，両者を比較検討することにより手法の妥当性を確認している．

以上のような定量的分析により、振動が検出され，対立の存在が示唆され，

内容を読解した結果振動した主成分に対応した対立が存在することが確認された，ニュースグループ fj.news.usage における大きなスレッドとして，次の３つのスレッドを見つけだしている．すなわち，(1) 誤りの指摘に際しての他人への配慮，(2) 正確な用語法，(3) 特定のニュースリーダを誤動作させる記事に関する議論の３つである．そして，これら 3 種類の主要な議論から検出された対立は，暖かい人間関係とローカルな通用性を重視するコミュニティ指向と，正確な情報と用語使用を重視し，規約を重視する普遍性指向の間の対立に集約することができるとの結論に達している．これら双方の社会関係は，伝統的な社会学では相反するものとされており，ネットニュースを対象とした分析の結果でもこの双方の間の対立が観察されたと言える．

以上より，電子的コミュニケーションのもたらす混乱を抑制し，その技術を有効に活用するために必要な知見を得ることができたと言える．よって本論文は博士（学術）の学位請求論文として合格と認められる。